北杜市子ども読書活動推計画策定委員会会議録

1　会 議 名：令和６年度第３回北杜市子ども読書活動推計画策定委員会

2　開催日時：令和６年１１月１８日（月）午後２時～午後３時３０分

3　開催場所：金田一春彦記念図書館　SV ホール

4　出 席 者（敬称略）

（1） 委員

河手由美香、小澤志保子、佐野隆、谷戸直子、齋藤園子、小宮山典子、津金胤寛、鷹左右紀、櫻井利行（鈴木委員代理）

（欠席委員：白砂卓巳、渡部一司、鈴木伸幸、前田久美、菊見理恵）

（2） 事務局

中央図書館長　中澤徹也　中央図書館総務担当　大塚美智子、河野明美

5　会議録署名委員（敬称略）

小宮山典子、齋藤園子

6　公開・非公開の別：公開

7　傍聴人の数　０名

8　会議内容

１．開会

２．会長あいさつ

３．議事

（1）「北杜市子ども読書活動推進計画（第四次）」の内容検討について

（2）今後の予定について

（3）その他

9　閉会

議事（1）:「北杜市子ども読書活動推進計画（第四次）」の内容検討について

事務局：「北杜市子ども読書活動推進計画（第四次）」について資料に沿って説明。

●質疑応答等

議　長：本日は事前にこのプランに目を通していただいていると思うので、委員１人ずつから全てを通して気付いた点や考え、質問等をまとめて伺いたい。

委　員：３２ページについて。第５章で計画の推進に向けて数値目標を掲げているが、一次から今回の四次と推進計画を作っていく中で、このような数値目標はそもそも必要なのか。子どもの読書活動がどのように行われているのかを確認するだけであれば、定期的にモニタリングするだけで十分だと思う。数値目標を掲げるからには、このような取り組みをすることで現状を変えていきたいという明確な方法と結果の対応関係が必要だと思う。計画自体は非常に網羅的で、どこを読んでも素晴らしい内容が書かれていると思うが、それを行うことで、最終的に３３ページにあるような意欲的な目標に本当に到達できるのだろうかと考えると私は疑問を感じる。現状では子どもの読書を巡る様々な厳しい環境がある中で果たしてどうなのか。目標を掲げるなということではなく、これまでの議論の中で数値目標に対してどのような考えを持っていたのかということを確認させてほしい。今回改めて必要なら数値目標が必要かどうかを再度議論すれば良いと思う。

議　長：まず事務局から、数値目標を設定することの必要性や考えについてお願いしたい。

事務局：この計画自体は法律に基づいて作られているため、国の計画を基に県が計画を作り、市町村は県の計画を参考にしながら作るという流れになっている。数値目標については、国、県ともに作っている。教育の部分については何十年後に成果が出るといったような考え方もあるが、やはり計画を作るにあたっては、ある程度指標をしっかり持った中で取り組みを行っていくという考え方があるので、指標として取り組みやすいものと数字で追いやすいものを数値目標として掲げている。この他に数値目標以外の目標も立てているので、そちらは数値で測るものではなく、現場の声も聞きながらモニタリングしていく等も必要になってくるかと思う。行政で行うこのような計画については、数値目標を検証するということは必要になってくると思うので、国や県を参考にする中で設定した。

委　員：理解した。そのようなことであれば３２ページの最初の数値目標の下の２行の文言を少し工夫してもらえればいいと思う。子どもの読書活動が効果的に遂行されているかどうかを客観的に測るならモニタリング。数値目標を掲げるのであれば、計画が達成するとされているかどうかを後日評価するために数値目標を掲げるということだと思うので、その辺りを修正していったらどうか。

議　長：法律に基づいて、国、県の計画の中ででも運営をしていくということで数値目標は必要だということだが、モニタリング的なこともこの計画を PDCA サイクルで回していく上では必要なことでもあるので、数値目標の後の２行の文言を少し工夫して反映していただければと思う。
次の委員、お願いしたい。

委　員：疑問に思っていたところは事務局の説明によりクリアになったので、質疑はなし。

議　長：次の委員、お願いしたい。

委　員：１７ページについて。保育施設における異年齢交流の実施率が 1～０になっている。コロナの関係もあるのか分かりかねるが、平成３０年には実施していたものが０になっていることを見ると恐らくコロナの影響ではないかと思う。このようなイベントがあれば、高校生なども参加すると思うが、０％という数値は寂しい気がする。やむを得なかったところもあると思うので状況の記載があると良いのではないかと思う。この０％の理由について補足があると良いと思う。

議　長：０％の補足説明等について、また、高校生の参加への今後の展望等について事務局よりお願い

したい。

事務局：異年齢交流については、第三次での説明が不足していた部分があり、現場での異年齢交流というものの捉え方に誤解があった。コロナの影響もあったが、アンケートを取る中での語句の意味の曖昧さもあり数値も正確性に欠ける部分もある。異年齢交流とは、例えば中学生や高校生が保育園に出向き絵本の読み聞かせや紙芝居を行うなど、子どもが絵本等に触れる機会が多様になるように工夫することなので、そういった意味がしっかりと伝わるようなわかりやすい表記をしていきたい。

委　員：そのような状況があるのであれば、０という書き方は避け、nd（no data）と表記した方が誤解がなく分かりやすいと思う。

議　長：実施していないということではなく、データが取れていないというような表記に変えながら補足をするという形で修正をしていただければと思う。

続いて次の委員、お願いしたい。

委　員：感想になるが、１４ページの学校における朝読の時間が減ってきているというところで、下から３行目。朝読の時間をタイピング練習や朝学習に入れ替えている現状があるという表記があるが、市内の中学校では、ほぼ朝読書がなくなっている学校もあるということを聞いた。そのような現状もあり、公共図書館へのブックトークの依頼等も増えているのではないかと思う。学校が忙しいので読書活動が削られるということではなく、公共図書館やボランティアの方の力を借りて、どうにか維持をしていくことがとても大事なのではないかと感じた。

議　長：このことついて、事務局で何か考えがあるか。

事務局：令和５年度末のアンケートによると朝読書は１００％実施しているという回答になっているが以前のように年間を通して毎日行っているのではなく、違う内容に置き換わったりしている状況もある。最近では公共図書館の司書がブックトーク等で多くの学校を訪問する機会を得ているが、そのような連携も大事だということで貴重な意見をいただいた。

議　長：続いて次の委員、お願いしたい。

委　員：資料の中の数値でわからない部分と文言で修正した方がいい部分をお願いしたい。１５ページ一番下の行の括弧内の人数について、中学生、高校生共に９３６人と同じ人数になっているが間違いないか。

事務局：間違いなし。

委　員：１６ページ一番上、中学生が７．８ポイント増というのは、どこから見て増なのか。

事務局：平成２９年度からの増だが、この部分には明記していない。本日配布したアンケート結果を見るとわかるが、この部分からは読み取りにくい。

委　員：同じ１６ページの中央。ボランティア保護者による読み聞かせの実施回数とあるが、表には実施園数とあるので、ここの部分は園になるのではないか。

事務局：修正する。

委　員：続いて２４ページ。１の基本的な考え方の上から７行目で、子どもの自発的な読書習慣を身につけるけると２つ重なっているので修正をお願いしたい。

３２ページ。不読者のパーセンテージと１か月に読んだ本の冊数のパーセンテージは、両方同じように２０２４年の学校図書館調査の結果に基づいて出すのが良いのではないか。

事務局：２０２４年度の結果を記載し、目標数値も少し修正をかける。

委　員：３２ページについて。指標面の中の週３回以上家庭で本を読む児童生徒の割合という中の高校生への調査は、ただ家で本を読んでいるのかという質問になるのか、家読をしているかという質問になるのか、設問についてはどうなるのかを聞きたい。また、学校図書館と公共図書館で今後電子書籍の話が出てくると思うが、それに関しての具体的なことは今回書かれていないが電子書籍については今回の計画の中には特に明記はしないということか。

議　長：委員から出された意見について、もう一度確認、整理する。まず、１６ページ一行目の７．８ポイント増が平成２９年度からの比較になっているが、表には明記されていないということでこの書きぶりをどうするかということについてだが、この点について事務局の方で何か考えがあるか。

事務局：先ほど説明させていただいたように、アンケート結果の方を見ると読み取れるようになっているが、この部分だけを見ると分かりにくいので、２９年度の基本となる数字を入れて引き算ができるような形を取った方が分かりやすいところもあるので、内容の検討させてほしい。

議　長：ご指摘いただいた通り資料を見ても分かりにくいようなところもあるようなので、この書きぶりは事務局に一任し、わかりやすく記載していただければと思う。続いて１６ページの、ボランティア保護者による読み聞かせの実施回数ではなく、実施園数に訂正していただく。２４ページの身につけるけるのところのけるを削除していただく。３２ページの表について、１ヶ月に読んだ本の冊数を２０２４年度の学校図書館調査に修正し、合わせて目標値も変えていただくことになる。目標値についてはここで提案するか。

事務局：小学生１５冊、中学生６冊、高校生２冊という目標値を掲げたい。

議　長：１ヶ月間に読んだ本の冊数を２０２４年度の図書館調査に変更しながら、目標値も今事務局から提案があった数値へ修正をする形でお願いしたい。次に週３回以上家で本を読む児童生徒の割合についての調査内容、調査項目はどのような形になっているのか、これは家読の実施回数なのかどうなのかという点についてはどうか。

事務局：昨年度末のアンケートでは、家庭で家族と一緒に読書をする児童生徒について質問をしたが、その中で小学生は家で家族と一緒に本を読むことはあるが、中学生、高校生になると家族と一緒に本を読むということはほとんどないということが見えてきたので、小中高では家族と一緒に本を読むということではなく、家で本を読むというところで見ていきたいと考えている。
今年度の結果は、家で家族と一緒に本を読む生徒の割合で出している。

委　員：そうすると同じものとして比較ができないと思うがどうか。

議　長：指摘いただいたように、令和６年度の実績値はこの項目としては聞いていないので、それを数値として提示するのはいかがかという意見。この表記の仕方について再度事務局で検討していただくということでよろしいか。

委　員：今の指摘に関して、単純にデータの内容や質の問題ではないと思う。家読という読書をきっかけに家族のコミュニケーションを豊かにしようという試みを行っているのか。単純に家で本を読んでいるか、物理的な場所を聞くということとはデータの質が全然違うと思う。ということであればどちらを取るのか、両方を表示するのか。例えば小学校のデータが家読と表現できるなら、家読という言葉を使って２１．９％というデータを提示し、中学校、高校では物理的に家で本読んでいるかを聞きたいのであれば切り分ければ良い。そのようにはっきりさせた方が

良いのではないか。家読というデータを落としてしまうのであれば家読は計画に入れないという内容にしなくてはならないと思う。これは計画の中にも関わってくると思うので検討いただければと思う。

議　長：単なる項目や数値の合わせではなく、家読を問うのか、家での読書を問うのかという質の問題にも関わってくる。そうなると、家読の計画を推進するという形になっている内容の方にも影響が出るので、ここは事務局で十分に検討していただくということでよろしいか。

事務局：家読については、毎年年度末に学校毎に取っている進捗状況アンケートで状況を見てきた経緯がある。数値目標に載せるとなると、四次の中間のアンケートと四次が終了するときのアンケートでその部分を聞いて読み取るという形になると思う。実際に推進してもらうのは学校現場なのでどちらに載せればいいのか悩むところ。数値の取り方を考えていく必要がある。

委　員：アンケートに答える側も、家読の定義を正しく理解した上で回答しているのかどうか心配。

議　長：数値目標にしていくということになると今後、中間検証も必要になってくるし、家読というものの捉え方や質の問題にも関わってくるということになるが、委員の中で考えや意見等があればお願いしたい。実際学校の方で投げかけるという立場になった場合どうか。

委　員：小学生であれば、家読と言えば家の人と一緒に読む時間をとるということになるが、中学生の娘は家読の宿題が出たと言われれば、家族で同じ本を共有するというところで捉えているのではないかという感覚が個人的にはある。家族と本について話をする機会が家読だと捉えていいのではないかと思う。

事務局：以前から保育園の保護者に対して、週３回以上、家庭でお子さんに本を読んだり、一緒に本を読む割合を聞いている。そこがスタートとなりその流れで家読関連の数値を小中高と見ていくのではないかというような読みもあるのではないかと思っているので、再度冷静に考えてみたいと思う。

議　長：高校の立場で何か意見はあるか。

委　員：１５ページに記載があるように、県教委で推進しているならば、データとしては継続して良いのではないかと思う。それとは別に、家で読んでいるデータをまた別に取るのであれば、それはそれで前向きで良いと思う。

委　員：中学校、高校の生徒を両方見ているが、中学生は長期休業中の課題として取り組む場合は、家族で一緒に読む機会はあると思うが、普段の生活の中で家族と一緒に読むということはあまりないのではないかと感じている。高校生も個々に好きな本を読み、家族よりも友達に勧められた本読むという傾向はあるので、家読でくくってしまうとやはり数字的には低くなってしまうのではないかと思う。家で本を読む回数を聞かれたらポイントは上がるのではないかと思う。

事務局：そうなった場合はこれとは比較しにくいという話がもちろん出てくる。

議　長：様々なご意見をいただいたが、家読を推進するという意味で本そのものを共有していくのか、本について話をするということから推進を進めていくのか、家でとにかく本を読むということを推進していくのかと様々な視点があるので、そこを事務局で精査していただく。ただ、データを継続的に取るということの重要性も考えながら、ここは重要な部分なので慎重に精査していただくということで事務局に一任でよろしいか。今の意見を踏まえ修正をお願いしたい。
もう一点の質問の電子書籍について詳細に触れられていないということについて。取り組みの中で、デジタル環境に伴い読書環境の改善、工夫という形については記載されているが、電子

書籍について詳細には明記されていない。特に数値目標にも入っていないが、このことについての事務局の考えはどうか。

事務局：前段でこれからのデジタル化に向けた取り組みや必要性は謳っている。具体的な取り組みとしては、予算の関係もあり、導入時期等については言いにくいところもある。予算を確保出来、実行されるようになれば具体的な数値目標や取り組み目標を掲げられると思うので、現段階では具体的には載せない形で考えている。

議　長：これからの４年、５年を見通した計画になるので、その間にデジタル化は一層普及していくかと思われるが、今事務局から説明があったように、予算等の関係で詳細に盛り込むことは難しいということだがどうか。

委　員：小中学生が１人１台タブレットを持っているので、電子書籍を導入出来ればいいかと思うが、システム上簡単にはいかないところもあり金額も多くかかるということで、すぐに予算を確保することは難しいと思う。しかしながら今後は必要なことだと思うので、時間をかけながら財政当局とも交渉し、いずれは導入していく方向になっていくと思う。

議　長：中間検証等もあるので、その中で電子書籍の普及状況や環境の整備状況を見ながら PDCA を回していただくという形でここでは確認させていただくことでよろしいか。

それでは、次の委員お願いしたい。

委　員：ネウボラに関わる部分で今後の可能性を広げることも考えて、追加の文言をお願いしたい箇所がある。１９ページ下のマタニティカフェについて。これは妊婦さんを対象に行っているもので、図書館の方に来ていただいて話をしてもらっている。毎回アンケートを取っている中で、早速今日から始めてみたい等の記載があり好評だが、１５分というかなりタイトなスケジュールで行っている。出産後に行うベビー教室があるが、時間も十分に確保出来、ゆったりした中で行える。ベビー教室でも行えれば効果的なのではないかと担当の保健師も言っていたので、２８ページの５、行政による子どもの読書活動の推進の中の関連行政機関、ネウボラ推進課の図書館との連携によるマタニティカフェ事業の開催をマタニティカフェ事業等の開催ということで、等を入れていただくと可能性が広がるのではないかと思う。連携しながら行っていければと思っているのでよろしくお願いしたい。

議　長：新たな連携の可能性ということで、出産後のベビー教室等の展開も考えられるということで、２８ページのネウボラ推進課の記載に、マタニティカフェ事業等の開催という形で記載の追記をお願いしたい。

それでは、次の委員お願いしたい。

委　員：学校における子どもの読書活動の推進ということで、特に２７ページ。読書活動の推進はとても大切なことで、今回この計画を作るにあたっては非常に理解はしているところだが、実際のところ学校現場は非常に忙しく、日々の授業をし、活動をし、朝の読書の時間も取れないような学校もあるということは聞いている。そのような状況の中で、読書の必要性を訴えていき、学校で先生方がどれだけ読書に対して理解をしてくれるのかが非常に大切なことだと思う。また、図書館も教室に入れない子どもの居場所ということで、子どもの見守りを司書にお願いしているところもある。司書の方々も読書の時間以外の部分でも多くの時間を取られている中ではあるので、今後こういった推進を進めていく中で、２８ページもあるが、各事業への支援や協力、校長先生方に話をしてできるだけ多く読書に関わる時間を取れるように、教育総務課と

しても今後協力していければと思う。

議　長：それでは、次の委員お願いしたい。

委　員：この計画が充実したものになればいいと改めて思いながら聞いていた。この資料に掲載された写真を見て、それぞれの活動の様子がわかる良い写真がたくさん載っていると思った。写真の中でも感じ取れるものがある。それを手にする方や見る方にも感じてもらえるといいと思う。言葉の使い方の中で、まず最初におはなし会という表記は、ひらがなで良いのか。２８ページにお話し会やイベントへの支援、協力という表記があるが、漢字になっているがどうか。

事務局：ひらがな表記に修正する。

委　員：もう一つ表記で最近とても気になっているのが、「こども」という表記。どのように書くのかが気になる。こども家庭庁はひらがなでこどもとなっている。今後のことを考えた時にどう使っていくのか。そこには決まりはないので、言葉の捉え方を検討したり考えたりする必要が今この時代はあるのではないかということを感じた。もう一つこの資料を見た時に、解説はたくさんあり、表の数字はよく読み取れるが、きちんと読み取っていかないとなかなか理解しにくく読みにくい部分はあるので、内容を整理できるような書き方があればいいかと思う。今後パブリックコメントをとる中で読み手のことを考えると、解説の羅列ではなく理解しやすく、中身が読み取りやすいような整理の仕方、表記の仕方というのもあるのではないか。

ここからは感想だが、朝の読書のところ。確かに今学校は忙しくて、タイピングや学習に使われていることが課題となっているが、課題で終わらせていいのかと思う。読書を推進するためにどのようにしていけば良いのかというところまでもう少し踏み込んでいけたら良いと思う。今、デジタル化で子どもはタブレットを見る機会は多いが、紙ベースのものを読んだりすることが不得意になっている。そう考えた時に、みんなで一緒に読書をする１０分が確保出来ないというのは寂しいと思うので、その辺りの中身も課題で終わらせたくないと思う。課題ですという文章で終わらせず、この時間の使い方、読書という機会を確保する意味でも有効な時間であるので、その使い方を工夫していきたい等、前向きな意見を入れてもいいのではないかと思う。

議　長：写真により伝わってくるものもあるということで、事務局に大変よいものにしていただいているということ。それから、おはなし会の表記については、もう一度確認をして統一をしていただくということ。こどもの表記については、また今後、私たちみんなが考えていかなければいけないところだが、今回のプランについては事務局で統一した表記で進めていただければと思う。やはり一番大きな課題としては朝読。調査では１００％実施している、しかし、生の声を聞くと、実質的には伴っていないのではないかということの報告が委員からもあった。教育総務課からも発言があったが、みんなで力を合わせて、それがただの課題で終わることなく市立図書館等の支援をいただきながら、なんとか学校の多忙化の中で、子どもたちが紙の本に親しむ時間を取れるようなことをこの計画の中に多少なりとも入れていただければ、より良いものになるのではないかという提案だった。ぜひその部分をもう一度確認いただき、最終修正をしていただければと思う。

私の方からは、毎回皆様からの貴重なご意見で勉強になることの連続で、皆様の本当に良いご意見によりブラッシュアップされた素晴らしいプランになってきたということに感銘を受けながら、会を進めさせていただいてきた。最初に委員からもあったが、数値目標という点につい

て。やはり教育については数値で測れない部分もたくさんあり、特に多様性が叫ばれている中で、子どもたちの多様な読書体験があっても良いのではないかと考えている。例えばひとりの子どもが一冊の本をじっくり読んでいくとか、その一冊の本を何時間かけて読む、その一冊の本を繰り返し繰り返し読むということ。それは決して数値の向上には繋がっていかないものかもしれないが、しかしそこが本の面白さに気づいていく非常に貴重な体験になっていくことは間違いないことだと思う。ただこれを数値目標で示せと言われるとなかなか難しい。それが教育の世界の一つの課題であると思っている。今後 PDCA サイクルを回していく中で、そのようなことの見取りをし、生の声聞いてほしいと思う。例えば保育士さんが子供たちの読書をどのように見ていたのか、子どもたちは本を読むことでどんなことが得られたのか、または保護者が何を感じたのか、先生方が何を感じたのか、様々な声を進捗状況の中で拾っていただくことで数字の指標には現れないまた別の効果や課題が見えるのではないかと思う。今後ご検討いただければ有難いと感じた。

以上、第１号議案について皆様からご意見をいただいてきたが、もう一度、前段を振り返って補足等のご意見等があれば確認させていただくが何かあるか。

委　員：この別紙のアンケート結果だが、前回に比べてとても見やすくなった。いろいろ工夫をしていただいているのだと思うが、少しもったいないと思った部分がある。多分枚数が増えることを懸念してぎゅうぎゅうに押し込んでいる結果だと思うが、設問とそれに対する回答のグラフのページがずれているところがたくさんあり、結果的に見にくくなってしまっている。それでは本末転倒だと思うので、行間を工夫したりしながら設問とグラフが１ページの中でうまく収まって、 見やすいアンケート結果になると良いと思う。

議　長：アンケートの結果の提示の仕方については、せっかくご苦労いただいてブラッシュアップされているので、ぜひページをまたがないような形の配置をご検討いただければと思う。

他、質疑なし。以上。

議事（２）今後の予定について

事務局：資料２により説明。

●質疑応答等

議　長：事務局の説明について、意見や質問等があればお願いしたい。

質疑なし。以上。

議事（３）その他

事務局：本計画のダイジェスト版について

本計画は本編とダイジェスト版の２本立てになる予定。本編は最終である次の策定委員会で策定となる予定となっている。ダイジェスト版については、計画の完成後作成という形になるので事務局及び会長と副会長とでやり取りさせていただき、一任いただいて、策定後に報告とさせていただきたい。よろしくご審議いただきたい。

議　長：事務局の方から、ダイジェスト版の策定について、次の２月に計画されている第４回の策定委員会の決定後にダイジェスト版を作成することになるので、ダイジェスト版については事務局と正副会長に一任をさせていただきたいということだが何か意見はあるか。

委　員：質問、意見なし。

議　長：それでは、最終的にダイジェスト版が出来上がったところで策定の委員の皆様にはお示しするという形でご了承いただきたいと思う。他に何かあるか。

委　員：この計画の中で外国籍の子どものへの読書活動の支援というところが日本語能力に応じた支援を必要とする子どもへの読書活動と言葉が変わっているところが気になった。外国人という言葉が良くないということか。

事務局：外国籍の子どもへの支援でも良いと思うが、県も日本語能力に応じた支援という表記なっている。外国の方で日本語が普通に喋れる方は普通の支援でいいのではないかと思う。支援を外国籍かどうかで分けないという意味でこのように変化してきたように思う。

他、質疑なし。以上。

閉会